大量殺人事件の分類と加害者属性の推定

¹ 中村有紀子・² 越智啓太

(¹ 法政大学大学院人文科学研究科心理学専攻・² 法政大学)

キーワード: 大量殺人, 類型, プロファイリング

Typology of Mass Murders and Estimate of an Assailant Attributes

¹Yukiko Nakamura・²Ochi Keita

(¹Graduate school of psychology, Hosei University,²Hosei University)

Key Words: mass murders, typology, profiling

目 的

近年、大量殺人事件は増加傾向にあるが、我が国の大量殺人事件の研究は、極めて少ない。我が国において、全国規模のサンプルを対象にデータ解析に基づいて客観的な分類を行なった研究として、渡邊・佐藤・吉本・横田・和智・藤田(2008)と越智・木戸(2010)の研究がある。渡邊らの分類では、「親族型」、「面識なし型」、「知人型」の3類型を抽出し、越智・木戸の研究では、「一家心中型」、「無差別殺傷・強盗殺人型」、「凶悪犯罪型」の3類型を抽出した。両者の分類は、「親族型」は「一家心中型」とほぼ同様のもの、「面識なし型」は無差別殺傷・強盗殺人型、「凶悪犯罪型」に分離し、渡邊らの「知人型」は、越智・木戸の研究では明確なクラスターは形成しなかった。つまり、未だに我が国の大量殺人事件の分類モデルは一定のものではない。そのため、正確な類型モデルを構築する必要がある。また、大量殺人事件の中には、強盗殺人事件や凶悪犯罪事件があることから、加害者が現行犯逮捕されない事件があるということになる。そのため、プロファイリングを用いて事件の情報を提供することができれば、捜査を円滑に進めるためにも重要になるであろう。

本研究では、我が国で発生した大量殺人事件のデータを集め、類型モデルを示す。また、犯行特徴から加害者属性を推定できるよう、プロファイルの作成をすることを目的とする。

方 法

1974年から2011年までに日本で発生し、犯人が特定され、ある程度の情報が得られた事件とした。事件の情報は、読売新聞データベース「ヨミダス文書館」を中心に用いた。検索時のキーワードとして、「殺人」、「大量」などを用いた。そのうち、本研究の定義に該当する110件の事件を分析対象とした。

分析変数は、加害者属性、犯行特徴の2種類の変数を用いた。加害者属性として、性別、年齢、職歴、リストラ・辞職、婚姻形態、前科の有無、借金の有無、精神疾患の有無、国籍の9項目とした。犯行特徴として、犯行時間帯、犯行現場、自殺の有無、犯行後の行動、証拠隠蔽の有無、計画性の有無、猟奇性の有無、窃取の有無、犯行予告の有無、単独共犯形態、遺書の有無、加害者被害者関係、被害者間関係、殺害動機、犯行中の飲酒の有無、犯行中の薬物の有無、移動方法、死亡者人数、殺害方法、逃走準備の有無、逮捕までの時間、被害者に対する殺意の有無、警察自殺の有無、逃走準備の有無、立てこもりの有無、無理心中の有無、25項目とした。

大量殺人事件の類型を示す分析方法として、多重コレスポンデンス分析(Multiple Correspondence Analysis)を用い、犯行特徴から加害者属性を推定する分析として、二項ロジスティック(Binomial Logistic Regression Analysis)回帰分析を用いた。

結 果

大量殺人事件を類型化するために、分析を行なった結果、大量殺人事件は3つに分類された。すなわち、無差別殺人型、凶悪犯罪・強盗殺人型、一家心中型である(図1)。

図1. 大量殺人事件の空間的マッピング

また、データセットをもとに、犯行特徴から加害者属性と加害者被害者間関係の推定を行なった結果、年齢や職業、加害者被害者関係の推定は可能であった。

考 察

本研究では、我が国で発生した大量殺人事件を分類したところ、3つの類型を示すことができた。本研究で得られた結果は、渡邊らと越智・木戸の研究と類似している点もあるが、同じではない。渡邊らの「面識無し型」、越智ら「無差別殺傷・強盗殺人型」は、「無差別殺人型」と「凶悪犯罪・強盗殺人型」に分離した。渡邊らの「知人型」は、「凶悪犯罪・強盗殺人型」に示されたが、凶悪犯罪・強盗殺人を分離することができなかった。これは、外見的には一見異なる行動が同じカテゴリーを形成してしまったと示唆される。

また、犯行特徴から加害者特徴を推定することは可能であることが示唆された。しかし、変数が不足し分析できなかった加害者属性や、予測した際の中心率が低かった変数があり、全ての加害者属性を推定するのは困難であった。今後は、本研究での反省を踏まえ、それぞれのタイプ分けが推定や予測に有用なるように検討する必要がある。

引用文献

- 越智啓太・木戸麻由美(2010). 大量殺傷犯人の属性と犯行パターン (1) 日本における大量殺傷事件の類型 法政大学紀要, **62**, 113-124.
渡邊和美・佐藤敦司・吉本かおり・横田賀英子・和智妙子・藤田悟郎(2008). 日本における大量殺人事件の発生状況と類型について 犯罪学雑誌, **74**, 190-204.